

2004年7月28日

平成15年度海外コンサルティング業務等受注実績調査
補足説明

社団法人 国際建設技術協会

1 受注額の大幅減と受注件数の大幅増

これは1件当りの契約額が「小振り化」したことを意味している。

【データ】	総額	件数	1件当り
14年度	599.4億円	753件	0.79億円/件
15年度	572.5億円	872件	0.65億円/件

2 15年度の受注額実績は過去10年間で最低。

平成12年度の受注額722.3億円（過去10年間最高）と比較すると149.8億円減少している。なかでも13年度から14年度の落ち込み額が107.0億円と最も大きい。3年連続の下げとなっており、過去3年間で平均すると毎年50.0億円ずつ減少していることになる。

【データ】	総額	前年度比	
12年度	722.3億円	*	過去10年間最高
13年度	706.4億円	- 15.9億円	
14年度	599.4億円	- 107.0億円	
15年度	572.5億円	- 26.9億円	

（3年平均：- 50.0億円）

3 3年連続の下げの内訳を見ても、JBICの落ち込みが顕著である。

【データ】	JICA	無償資金	JBIC	JBIC前年度比
12年度	235.6億円	57.9億円	333.0億円	
13年度	211.5億円	87.8億円	318.0億円	（- 15.0億円）
14年度	203.1億円	48.9億円	273.6億円	（- 44.4億円）
15年度	187.8億円	51.5億円	195.1億円	（- 78.5億円）
（下げ額）	- 47.8億円	- 6.4億円	- 137.9億円	
（平均）	- 15.9億円	- 2.1億円	- 46.0億円	

4 ODA の全体に占める割合が低下傾向にある中で、国際機関からの受注額が 166.5%と顕著な増加を示した。

【データ】	受注額	前年比
14 年度	16.4 億円	
15 年度	43.7 億円	166.5%

国際機関の内訳をみると、アジ銀からの受注額の伸びが大きい。

【データ】	アジ銀	世銀	その他
14 年度	10.2 億円	2.1 億円	4.1 億円
15 年度	35.5 億円	5.6 億円	2.6 億円

5 ODA 関連の受注実績が低調なのに比し、ODA 以外の受注実績は 77.6%の伸びをみせた。しかしこのことは ODA から ODA 以外へのシフト傾向が始まったとするほどの勢いとなっていない。

なお、その他の 268.0%の急伸は特需的なものであるが、受注への貢献をなしている。

6 1 件当りの受注高は全体で 0.872 億円から 0.712 億円と減少した。これには次の 2 つの要因がある。

(1) JICA のように件数が大幅に増大した。

(2) JBIC のように受注高が減少した。

【データ】	JICA	無償資金	JBIC
14 年度	0.635 億円	0.739 億円	1.978 億円
15 年度	0.476 億円	0.791 億円	1.494 億円

【データ】	JICA	無償資金	JBIC
14 年度	318	66	138
15 年度	393	65	130

7 円借款における全コンサルタント契約額の低下にスライドする形で調査対象企業受注額も低下したが、受注比率（66.8%）は過去 10 年間の比率 63.8%のレベルを維持した。

8 JBIC のコンサルタント契約実績 (2002 年度・2003 年度)

【2002 年度】

	契約額 (百万円)	本邦コンサルタント契約額 (百万円)	本邦コンサルタント受注率 (%)
円借款	35,625	24,871	69.8%
(1) 二国間タイド	20,728	16,916	81.6%
(2) 一般アンタイド	13,711	7,079	51.6%
(3) 部分アンタイド	1,186	876	73.9%
SAF 業務	2,313	2,313	100.0%
合計	37,938	27,184	71.7%

【2003 年度】

	契約額 (百万円)	本邦コンサルタント契約額 (百万円)	本邦コンサルタント受注率 (%)
円借款	26,455	15,180	57.4%
(1)二国間タイド	19,316	11,121	57.6%
(2)一般アンタイド	7,139	4,059	56.9%
(3)部分アンタイド	0	0	0.0%
SAF 業務	2,754	2,754	100.0%
合計	29,209	17,934	81.4%